日の出

第 62 号
発 行 所
印南宏後援会
我孫子市日の出 1131
日本電気労働組合
我孫子支部内
発行責任者　野田　泰造

二〇一〇年、今年も残すところ後わずかになってきました。季節は秋から冬へ。今年の冬は例年になく寒い冬になるとの情報もあります。後援会員の皆さまにおかれては、いかがお過ごしでしょうか！

暑い夏・民主党代表選挙

今年の夏は異常に暑い、いわゆる猛暑の夏となりました。「あつい」といえば政治の世界も同じ。劇的な政権交代から一年近く経った七月十一日に行われた参議院選挙では、政権与党の民主党は大敗しました。その後、鳩山首相の辞任やマニフェストの見直し、そして、政権党の実力者同士が「総理の座」を争う代表選が続くなど、国政は大きく揺れ動いています。

代表選挙の結果は世論調査の通り、「政治と金」に加え、わずか三カ月の任期しか経験のない菅首相を変えることを否として、流れは反小沢で終始しました。それでも代表選挙の最後を飾る二人のスピーチでは、ともにキング牧師の歴史的な演説のフレーズである「私には夢がある」が用いられていました。この困難な時期に国政のトップを目指す二人は私たちに夢の大切さを熱く語りかけた内容でした。代表選挙前後以降、日本は急激な円高や株安が進むとともに、国際情勢の緊迫化など取り組むべき難題が山積しています。是非とも、語られた夢が正夢となるように、政治の実行力に期待したいと思っています。

市制施行四十周年とゆめ半島千葉国体

今年、我孫子市は市制施行四十周年の節目の年です。昨年は景気悪化のために中止された「手賀沼花火大会」の実施に向けて、我孫子市と柏市の両市は共同で募金を呼びかけ、約四百八十万円が集まりました。県内最大規模の一万三千五百発を盛大に打ち上げた花火大会（八月七日開催）は天候にも恵まれたこともあり、例年にない、一味違うすばらしい花火大会となりました。

千葉県では第六十五回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」が開催され、十月五日に閉幕しました。全国からトップアスリートが千葉に集い、我孫子市はなぎなた競技会を担当しました。我孫子市が担当したなぎなた競技では千葉県は総合三位に入賞という成績でしたが、最終的な総合成績としては悲願の天皇杯と皇后杯を獲得し、多くの感動とともに無事に十一日間の競技を終了しました。

さらに「ゆめ半島千葉国体」に続き、十月二十三日から二十五日の三日間、第十回全国障害者スポーツ大会が、「ゆめ半島千葉大会」と銘打って千葉県で初めて開催されました。全国から三千人を超える選手が集い、大きな声援を受けたアスリート達による記録ラッシュの熱い戦いが展開されました。

いよいよ選挙本番へ！

我孫子市は、来年一月（一月十六日告示、一月二十三日投開票）に市長選挙、四月には県議会選挙、そして十一月には我孫子市議会議員選挙（定数が二十八名から二十四名と四名減）など各種選挙が予定されています。自分たちの住むまち「我孫子」をどんなまちにしていくのか、どんなまちにしていきたいのか、市民の皆さんが審判を行う時期がやってきます。賢明なる市民の皆さんには、日頃から政治について一層の関心と監視の目を持って、私たち一人ひとりの思いを市政に県政に反映させて欲しいと願っています。

九月定例市議会

九月議会は八月三十日（月）から九月十六日（木）まで、十八日間行われました。今議会は市長選挙前、最後の代表質問が行われる九月議会であり、全部で代表・個人質問併せて十六名の議員が質問に立ちました。私は三日目の午後に登壇し、環境行政、都市行政、交通行政など市民から寄せられた課題を中心に個人質問を行いました。

また、担当している環境生活常任委員会では、第四号議案の「我孫子市ペット霊園設置の許可等に関する条例の制定」に関して、ペット霊園設置基準のあり方や移動火葬車による行為の制限など、規則の充実を提言しました。

その他、所管事項として、①「手賀沼の水質浄化策として手賀沼沿い公衆浴場施設の排水調査について」②「天王台駅南北、ムクドリ糞害対策の強化、我孫子らしい対策の実施」③「安全安心なまちづくりとして防犯行政、移動交番と既設交番の充実」④「商工業の活性化策として我孫子市商工業振興基本条例の制定と具体的な産業活動支援条例の必要性」などの質問と提言をいたしました。

《主な争点となった行政課題》

①議案：「ペット霊園の設置許可に関する条例」県内初、移動火葬車も規制へ！
②議案：九月補正予算のあり方（地方交付税と臨時財政対策債、要保護・準要保護児童生徒就学援助費）
③請願：「永住外国人への地方参政権付与の法制化に反対する意見書の提出」

◆印南宏は九月市議会で個人質問に登壇しました。主な質疑内容は次の通りです。◆Ｑ＆Ａ（抜粋）

■新焼却炉の建設時、温水プールの設置を！

宏：新焼却炉建設が自区内処理となった場合、地域対策の一環として多目的な温水プールを設置することは、現在の市の財政状況からすると補助金の活用を含めて最大のチャンスである。超高齢化社会の時代において、必要なデイケア等リハビリに活用できる温水プールの設置を実現してほしい！

環境経済部長：現在、新焼却炉建設にあわせた温水プールの設置は考えていないが、余熱を利用する付帯施設については、建設計画を策定する段階で、様々な角度から検討していきたい。

■独自の自殺対策制度の確立！

宏：八月末に第一回自殺対策協議会が開催されたが、単に自殺の実態の把握や共有化を行うだけでなく、明確な自殺対策の目標を掲げることが必要である。我孫子市独自の自殺対策制度を構築すべきである！

健康福祉部長：平成二十一年度、我孫子市内では三十七人の自殺者が発生している。傾向としては、女性より男性が多く、年代別では中高年が多くなっている。自殺対策協議会は医療機関や福祉関係者、警察など十四名で構成された組織である。自治体として必要な情報を入手して、国や県と十分な連携を図るとともに、協議会の各委員からも自殺に関する様々な情報を提供していただき、我孫子市の自殺対策を総合的に取り組んでいきたい。

■雨水調整池の有効活用策！

宏：市が管理する調整池は三十三箇所存在するが、「篠の越調整池」をモデルケースに我孫子市の財産である調整池を、より市民に親しみやすい親水性あふれる調整池に再整備を図ってほしい！

建設部長：「篠の越調整池」は自然を活かした調整池であり、布佐市民の森に隣接し、周囲は多くの自然が残存した水鳥の休息場所となっている。このようなことから、多目的活用に際しては、安全性を確保した上でより親水性を高めるため、野鳥観察できる施設やフェンスの改修を検討していきたい。

■コウノトリやトキが舞う自然環境の整備について！

宏：今回、我孫子市は「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」へ加入したが、過去、平成十九年にコウノトリ放鳥事業を凍結した経緯があるが凍結を解除すると理解してよいのか。また、今後の対応として具体的にどのように取り組んで行こうとしているのか。

環境経済部長：我孫子市が独自で行うコウノトリの放鳥事業については、ご指摘のとおり平成十九年度に凍結とした。この方針は現在も変わっていない。具体的な行動として、まずは野生復帰に向けた情報の共有、意見交換を予定している。可能な範囲で協力していきたい。

■成田スカイアクセス線と交差する新駅の建設を！

宏：今年七月に開通した成田スカイアクセス線の成田湯川駅に、ＪＲ成田線が接続できる新駅が必要である。この新駅で乗り換えることができると、ＪＲ成田線から乗り継ぎの改善が図られ、ＪＲ成田線の利用者の増につながることや、ＪＲ成田線の下総松崎駅と成田駅間に中間の駅ができることで列車のすれ違いが可能となる施設が増え、一時間当たりのＪＲ成田線の運行本数を増やすことが可能となる。再度、ＪＲ成田線の新駅の必要性を強く要望していくべきである。

市長：成田スカイアクセス線の成田湯川駅と乗り換え可能なＪＲ成田線の新駅の設置について、本年七月に成田線活性化推進協議会や千葉県ＪＲ線複線化等期成同盟の重点項目としてＪＲ東日本に要望している。新駅設置は、ＪＲ成田線沿線はもとより千葉県北西部や埼玉県、茨城県からの成田空港へのアクセスが改善され、広域的な交通ネットワークの観点からも望ましいと考える。また、ＪＲ成田線の利便性向上や沿線の活性化につながると考えているので、今後も成田スカイアクセス線の成田湯川駅と乗り換えが可能となるＪＲ成田線の新駅設置について、ＪＲ東日本に働きかけていきたい。

宏はこう考える！

対立する首長と議会

最近、名古屋市や阿久根市など地方自治体で「首長（市長）と議会」の対立している問題が大きくマスコミで報道されています。地方議会に身を置く一人として、私は注意深く、ことの成り行きを見守っています。このような対立は両市だけの問題ではありません。地方財政の悪化が進むにつれて、改革手法（市民税の恒久減税や職員給与の公開と削減、議員定数の削減・報酬のあり方等）の違いをめぐって、執行権を持つ首長と議決権を持つ議会は、俗に言う「二元代表制」と呼ばれる地方自治・政治の仕組みの中で、今後、対立を激化させていく可能性があることはどの地方であっても予想されます。

皆さんご存じのように、地方自治制度では、市長は住民から直接選挙で選ばれる市民の代表です。一方で市議会議員も市民の代表であり、市政の抱える問題について、この両者が相互にチェックする二元代表制を採っています。双方の一定の緊張関係のもとで、徹底的な話し合い

を行い、一致点を見出すことが大前提の制度が地方自治体の政治システムといえます。

阿久根市のように議会を召集せず、市職員や市議会議員の人件費、副市長の選任、補正予算などを、すべて**※専決処分**で処理し、議会の議決を経ることなく執行されている例は異常極まる事態で、地方政治として考えられないことです。

しかし、阿久根市のような異常な事態はないにしても、この問題を、我孫子市議会や、市長を代表とする執行部に即して見た時に、

・我孫子市の二元代表制は果たしてまったく問題はないのか

・我孫子市議会は、その機能をこれまできちんと果たしてきているのか

・首長が予算編成権を独占していることを踏まえて、首長に擦り寄って利権の独占を図ろうとする議員はいないのか

・議会がオール与党化して、首長と議会の中にしっかりとした緊張関係が保たれているのか

・首長はあくまでも議会が議決した範囲内での執行機関に過ぎないのに、圧倒的な「首長優位」の市政となってはいないのか

など、あらためて自問自答して考えてしまうことがあります。

今日までの議会運営の反省に立って、現在我孫子市議会でも、私が副委員長をしている議会運営委員会の中で「議会基本条例」などの議会改革を鋭意検討中です。「住民によりひらかれた議会」や「議会の質の向上」に向け、改革に取り組む必要性は日増しに大きくなっています。首長の提案する議案を厳しくチェックすることはもちろん、議会への住民参加や議員間討議の制度化、執行部から議会への反問権、常任委員会のネット中継・情報発信の徹底、議会として合同で行う市政報告会の開催など、議会改革の取り組みを加速しなければならないと痛切に感じている昨今です。

（**※専決処分**とは、地方自治法上、「議会の議決すべき事件について特に緊急を要するため議会に議会を招集する時間的余裕がないことが明らかに認められるとき」など、やむ得ない場合のみ首長に認められる例外措置である。）

印南　宏　現在の主な役職

市議会「あびこ 21」会派代表
市議会環境生活常任委員
議会運営委員会副委員長
我孫子市成田線を便利にする議員の会副会長
連合千葉議員団　幹事長
電機千葉議員団　前幹事長
我孫子市サッカー協会　顧問
我孫子市ソフトボール連盟　顧問
新聞奨学生ＯＢ会相談役（前会長）　他

『ムクドリ、鳥と共存するまちの施策』

毎年、夏から秋にかけて「ムクドリの糞害」について市民の皆さんから、「早く何とかしてほしい」との切実な声が届くようになります。

天王台駅や我孫子駅では、駅ロータリー周辺の樹木の一部伐採や網掛けの実施など、試行錯誤を繰り返しながら様々なムクドリ対策を講じてきましたが、ムクドリが来なくなる決定的な方法が未だ見つかっていません。我孫子市は平成十九年度からムクドリの現況を把握し、適切にムクドリ対策を講じてきましたが、対処するため天王台駅周辺のムクドリ調査を定期的に実施しています。その結果、昨年度のピーク時は、天王台駅南口で三千二百羽、北口で四千九百羽と、天王台駅周辺がなんと約八千羽のムクドリの「ねぐら」となっていることが分かりました。現在、市では我孫子野鳥を守る会、鳥の博物館友の会、学芸員、市民スタッフの皆さんとも協力してムクドリの情報収集、対策を鋭意検討しています。

鳥と共存するまちを目指す「我孫子」にとっては、この問題を鳥と人間が共存・共生する形で解決できるかが、目指すまちづくりのための大きな試金石となると、私は考えています。その為には、収集した各種情報をもとに都市鳥の専門家の意見、研究を踏まえて、最善の対策を実施して行くことが必要です。ムクドリは「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」により、原則、捕獲・駆除が禁止されています。また、都市の鳥は一度追い払っても違う場所に一時移るだけで、また戻ってくる可能性があるばかりでなく、下手に追い払うと逆に一年中の住処として定住することもあるなど、大変難しい習性をもっています。

そこで追い払うという発想を変えて、誘導するという「我孫子らしい」対策を実施できないか、是非、取り組んで欲しいと思っています。これは、あるる程度ムクドリと共存する覚悟を我孫子市が持って対策を練るということです。鳥も生きていくという本能を持っています。「この場所はやむを得ないという場」としてのムクドリのねぐらを、我孫子市としてムクドリに提供する必要があると思っています。

ムクドリの都市化の問題は我孫子市だけの問題ではありません。常磐線沿線都市を中心に自治体同士が互いに連携して、コウノトリやトキの野生復帰と自由な回遊を目指し千葉県を含む四県二十七自治体が設立した「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」ではありませんが、我孫子市鳥の博物館、山科鳥類研究所の専門家のお力をいただいて、都市の鳥「ムクドリ」と共存・共生するフォークロアムを我孫子市が提唱して、抜本的な鳥と共存・共生する対策を早急に構築すべきと提言しています。

宏の独り言 〈市長の理想像とは〉

冒頭にも記載したとおり、我孫子市の市長選挙が来年一月二十三日に投開票されます。市長になるには、どんな人が良いのだろうか、市長にふさわしい理想な人物とは、どんな人物なのか、考えてみました。

私は市長には三つの条件が必要だと思っています。

第一に、自治体のトップとして、どんな街をつくるのか、明確なその街の目指すべき目標、ビジョンを示せる人であること。現在なら、市民の総意が何処にあるのかを敏感に感じつつ、街の魅力度をアップさせ、若い人たちにも住んでみたいと言われる街に、我孫子を変えていく、定住志向を促すことができる人が望ましいと思っています。

第二は、そのまちづくりの目標を達成するために腰砕けすることなく、力強く筋を通すことのできる人。スタンスをしっかりと持って、まっすぐと進んでいける人が必要です。

第三は、いろいろな意見、特に反対派の意見にも耳を傾けて、良い意見ならば大胆に施策に取り入れる度量、幅のある人がふさわしいと思っています。

もちろん、以上、三つの条件以外に、ふるさと我孫子を人一倍愛していること、情熱を持って行動することができる人が市長にふさわしい人物だということは言うまでもありません。

私自身としては、この理想像に相応しい人物像を見極めていきたいと考えています。

そして、そうしたリーダーとともに、子供や孫の世代においても「我孫子を誇れる」ようにするまちづくりを目指していくことが私自身の責任だと思っています。

日の出雑感

「いくら福祉を充実しても自由に外出できない社会は不幸な社会である。」十月七日湖北地区公民館で開催された、高齢化社会を踏まえた市内交通に関する講演会（地域公共交通協議会）の講師、阪大の森栗教授の言葉である。それだけ高齢化社会における公共交通の足の確保は大切な事業である。現在、我孫子市は高齢者や障害者等の外出支援を目的として地域と駅を結ぶ、「船戸・台田ルート」「栄・泉・並木ルート」「新木ルート」「布施ルート」の四つのルートであびバス（市民バス）を運行している。現在、既存ルートも含めて、見直し作業が平成二十二年二月に設置された我孫子市地域公共交通協議会の中で行われている。新たな公共交通システムが構築され、高齢者が自由に外出できる、そして安心して暮らせる、持続的なまちづくりが求められている。

◆今年の夏は例年にない猛暑の夏。ところが、市内の小学校十三校、中学校六校の普通教室における扇風機の設置状況はアンバランスとなっている。第三小学校のように新校舎・増改造の際はじめから普通教室に各二台の扇風機をつけるように計画的に整備した学校もあれば、全く配備されていない学校も混在する。学校保健安全法では教室内は三十度（十度～三十度）以下にするように定められている。それに対応すべく、近隣の野田、流山、鎌ヶ谷市の各小中学校には既に扇風機が配備されている。地球温暖化の時代、猛暑の夏は来年以降も予想される。エアコンの設置はすぐには難しいが、扇風機だけでもできるだけ早く全校に配備できるように努めていきたい。

◆我孫子市では、指定学区制に基づき児童・生徒の通う学校が決まる。我孫子市内の児童生徒数は昭和五十八年の一万九千二百五十三人とピークを迎えた後、減少に転じ、平成十五年には九千六百二十三人と半減した。ここ数年は微増傾向にあり、平成二十二年五月現在で一万五百八十三人となっている。しかし、市内東西の児童・生徒数の増減の格差が大きく、児童・生徒数の増が激しい市内西部の根戸小は数年後教室が足りなくなる恐れがある一方、市内東部の布佐南小は平成二十六年には一桁の入学人数になると予想される。西高東低の対策を講じるために教育委員会の中に「小中学校適正配置検討委員会」が設置され、七月十六日には第一回検討委員会が開催された。来年度には外部の専門家等を入れた「通学区域審議会」を開催する。学校の統廃合にならないよう指定学区の見直し等、対策を早急に行なう必要がある。

◆先日、漫画家の水木しげるをテーマにしたNHKの連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」が高視聴率で終了した。当初、私はこの番組にあまり興味を持たなかったが、だんだんとドラマにのめり込んでいった。自宅のテレビを連続録画に設定し、時間を見つけては番組を楽しんだ。戦争で片腕を失くした主人公が自分の選んだ「漫画」という仕事に血のにじむような努力で取り組む姿勢や漫画にかける意気込み、そして貧乏な中でも好きな仕事に没頭しながら家族と共に歩んだ人生を観ながら、「幸せ」とは一体なんなのかを考えさせられた。時代背景（昭和期）も含めて、私の年代層以上の皆さんには多くの共感を呼んだものと思う。私は、日頃から好きな仕事をして、それで家族みんなで生活（食事）ができて、その仕事が世間の皆さんから賞賛を得られることが出来たら、どんなにすばらしい人生だろうかといつも考えていた。まさに、水木しげる夫婦はすばらしい人生を実践したのでは。「努力は必ず報われる」。信じて歩みたい。

宏

宏と語る 小さな小さなティーパーティー 受付中!!

＜お気軽に声をおかけください＞

印南 宏 後援会
〒270-1198
我孫子市日の出 1131
（日本電気労働組合我孫子支部）

印南 宏 自宅
布佐平和台7－1－8
TEL 7189－1598
E-MAIL innami@mqd.biglobe.ne.jp